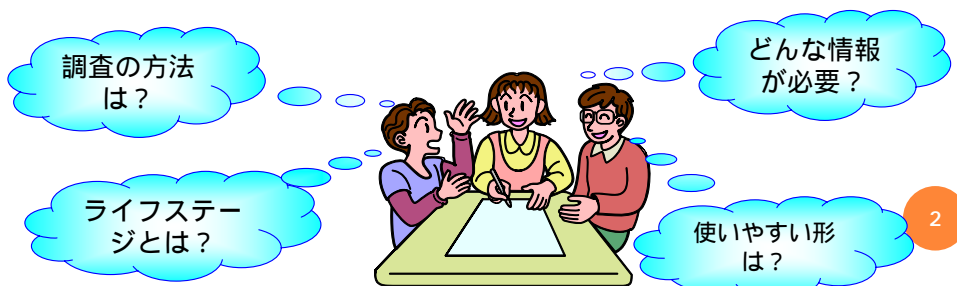




マップづくりの目的と視点

- 地域の資源をマップにして共有
- 地元意識、福祉的視点の育成
- 調査者、対象者の交流
- 身近なことから「わが町」の評価



一年目の活動では

ライフステージやマップの形状などについて、100人委員会のメンバーで議論を行い、提言をまとめました。

そのなかでは、地域活動におけるマップの調査が、住民自身が地域資源を見えるようにして、自分の町を再検証し、解決の道を探る第一歩になり得るといった新たな視点も加えられました。

手法・ツールの作成 実践を通じた検証

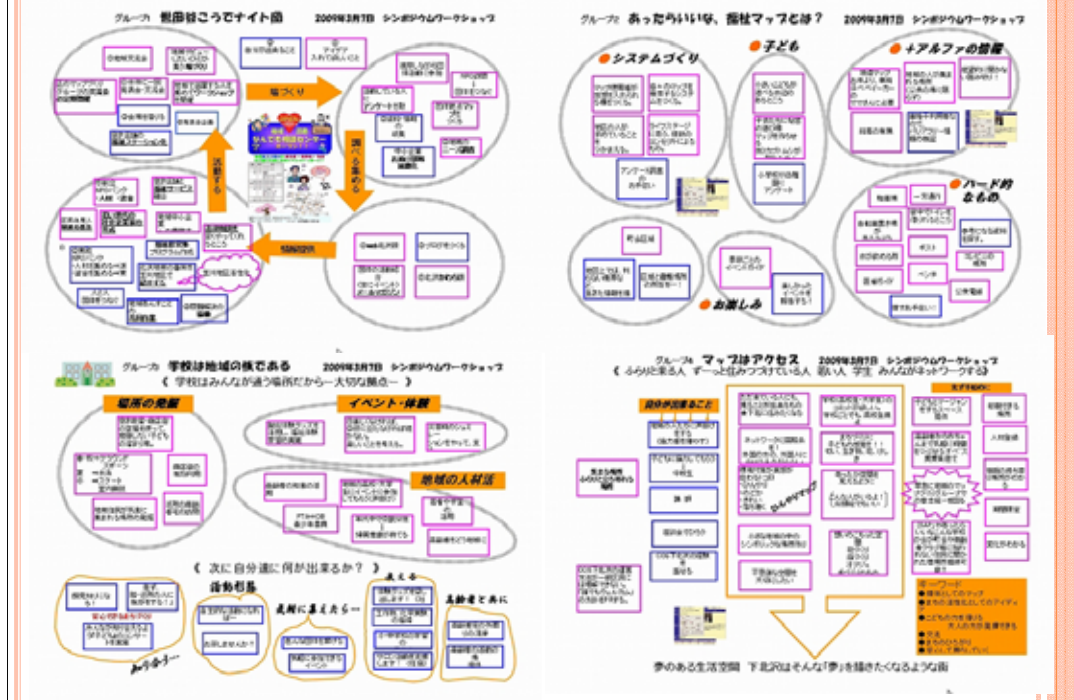
- ・ 住民活動と連携した調査の実践
- ・ 学習会、シンポジウムの実施
- ・ マップ情報の収集ツールの作成
- ・ ホームページでの情報提供



二年目となる現在の活動では

一年目の活動を受けて、提言を実践するための仕組みづくりと、その実験に取り組んできました。

福祉マップづくりシンポジウム



一つは、下北沢周辺地区を基盤として活動しているNPOや住民の活動と連携して地域の福祉的資源の調査を実施しています。

この間、「COS下北沢」や20年度人まち塾の卒業生の集まりである「コーデナイト団」、「NPO法人リンク」と協働することで、それぞれの活動に広がりを持たせるとともに、調査活動や運営の方法など、ある程度、役割分担のようなものが見えてきています。また、協力して開催した地域の皆さんを対象としたシンポジウムにおいては、マップについての新たな視点をまとめることができました。

情報収集ツール

インターネット

画面の様式で入力

メールが届く

5

うーつは、情報を集めたり、発表するためのツールを、実際にインターネット上に作成して、試行運用してきました。

このツールを活用することによって、つながりを持つ皆さんから効率よく情報を集めたり、マップを参照して意見を出すことができます。

ホームページでの提供イメージ



インターネット上では、このように公開できます。この掲載するマップの作成や管理については、関係者で学習会を開くなどして研究しています。

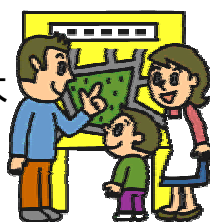
今後 今後の進め方

活動の展開に向けて

- 団塊世代の地域活動支援などによるマップづくりのイベント企画
- 地域コーディネータの役割への位置づけ
- 各地域の住民マップづくり活動との連携
- 各地域PTA、NPO、商店街などへの呼びかけ



- マップの種類、数の増加と地域の拡大



7

これからの活動としては

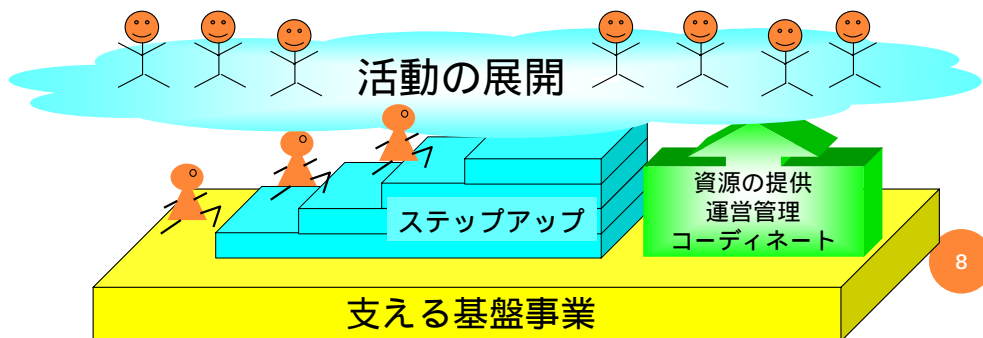
このマップの作成活動をイベントとして企画したり、これから始める地域活動の一部として取り入れるなどして、最終的には区内の全地域に広めていけると考えています。

事業の継続に向けて

- サーバーや活動拠点など資源の継続的な確保
- 活動人材の継続的な確保とサポート体制
- 事業が継続可能な資金の担保



- 各NPOの役割の整理とステップアップが必要
- 活動を支える基盤が必要



また、今後のマップ数の増加やネットワークの拡大に向けて、しっかりとした活動基盤を作っていく必要があります。

地域のマップづくりの活動は、広がりを持つに従って関わる人が増えてきます、その際に安心して継続した運営ができるための、人材・資材・資金が必要になってきます。二年目の活動で見え始めているそれぞれの活動団体の役割を整理して、必要なステップアップを図っていきます。